



自然観察

No. 82
2007
3月

目次

・ 総会議案書案（概要）	2006年度事業報告	-----	2
・	2006年度決算中間報告	-----	4
・	2007年度事業計画(案)	-----	5
・	2007年度予算案(暫定)	-----	6
・	北海道自然観察協議会会則（改定案）	-----	7
・ 2007年度自然観察会参加指導員アンケートのお願い		-----	3
・ 会計からのお願い		-----	4
・ 2007年 総会・講演会・懇親会のお知らせ		-----	8
・ シリーズ 自然環境と廃棄物 第3回		-----	9
・ 参加者の声		-----	10
・ 会員の個展のお知らせ		-----	10
・ ウォッチングレポート		-----	11
・ フィールドニュース	苫小牧市 岩見沢市 厚別区	-----	13
・	函館市 当別町 東京都にて 稚内市	-----	14
・ 観察部からのお願い		-----	15
・ 事務局だより		-----	16
・ 理事会だより		-----	16
	緊急連絡先他	-----	16



キタミフクジュソウ

総会議案書案 (概要)

2006年度事業報告

[決算(中間)はp.4]

1. 観察会の実施状況

<一般観察会について>

2006年度の観察会は、開催予定50回(滝野の集いを除く)で、2/8日現在悪天候による中止2開催をのぞき43回開催された。このうち報告書未着および報告書不備の2回を除く41回の参加者数である。最終集計は4月の総会及び会報83号にて報告。

一般参加者 延べ 729人

参加指導員 延べ 201人

一般参加者の年代別集計では、未記載が43名。例年同様50代、60代が年代記載者686名中、424名と約62%をしめている。

各観察会の実施状況はその都度会報に掲載している。

<滝野の自然に親しむ集い(第17回)について>

場 所 滝野自然学園とその周辺

実施日 2005年7月29日(土)～30日(日)

参加料 3,700円(指導員の参加料は同額)

一般参加者38名(14家族)、指導員13名、合計51名。参加14家族中半数にあたる7家族が、昨年に引き続き参加してくれ、夏休み中のイベントとしての定着がうかがわれる。

2. 指導員研修について

<全道研修会>

(1)NACS-J海岸植物調査研修会

6月24日(土)～25日(日)

石狩温泉「番屋の湯」研修室、石狩浜

講師 由良 浩氏(千葉県立中央博物館)

開発 法子氏(NACS-J)

内藤 華子氏(石狩浜海浜植物保護センター)

38名の参加で研修した。主な研修内容は、内藤講師の「石狩浜の海浜植物と保護活動」、開発講師の「海岸植物群落調査の目的、概要、計画」、由良講師による「海岸植物群落の特徴～海岸、特に砂浜の環境と海岸植物群落の関係」、フィールドでの実地の観察であった。

(会報80号p.6参照)

(2)ガンカモティーチャーズガイド講習会

'07年3月24日(土)～25日(日)

ウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンター

講師 日本野鳥の会レンジャー(原田修氏・五十嵐真氏・江崎逸郎氏・大谷多鶴子氏)

<地方研修会>

(1)キノコというものをもっとよく知ろう

10月1日(日) 苫小牧市 アルテン錦大沼公園

講師 豊澤 勝弘氏(北海道自然観察協議会)

午前は講義室でスライドや標本を見ながらキノ

コの形態、生息環境、分布などを勉強した。午後はフィールドに出て午前中に学んだことを実地で研修した。今年は気温が一気に下がって秋のキノコの出が悪いということであったが、数十種類のキノコに出会うことができた。(会報81号p.3参照)

(2)フォローアップ研修会

11月19日(日)に予定していたが、希望者が少なく中止した。2年連続の中止であり、きちんとした反省をして今後の方向を考えていきたい。

<ミニ研修会>

総会で「会員が普段手がけている小さなテーマや狭いフィールドにしばった研修も手軽に実施したい」と位置づけたが、具体的な取り組みは一部に留まった。

3. 会報発行について

会報79号(6/15)、会報80号(9/15)

会報81号(11/15)、会報82号('07/3/15)

予定通り発行できた。

4. 組織の状況

3月末現在で会員数が約400名です。

5. 理事会・部会・事務局関係

総会 4月15日(土) 13:00～14:20

札幌市環境プラザ研修室1号・2号室

講演会 14:30～16:00

札幌市環境プラザ研修室

演題-「森林性植物の季節性と繁殖特性」

講師-工藤 岳先生 北海道大学大学院地球環境科学研究院助教授

一般参加者22名 会員36名 計58名

理事会・各部会

理事会 4/15、6/2、8/4、10/3、

'07 1/26、2/27、

研修部会 '07 1/26

観察部会 4/28、'07 2/15

編集部会 5/23、6/5、6/14、8/22、9/5、9/12、10/24、

11/7、11/14、'07/2/20、'07/3/6、'07/3/13

「プロジェクト20」(実践活動広報)

環境プラザ「環境団体アナウンス～取り組みを伝えよう、広げよう」

エルプラザ1階エントランスロビーにてパネル展出展 '07/3/3～3/9

事務局動向

環境道民会議セミナー出席 4/21、9/26、

'07/2/21

「環境白書を読む会」環境省 北海道地方環境事務所 6/20
北海道高山植物盗掘防止ネットワーク防止委員会 '07/4/7

忘年会 11月25日(土) 居酒屋「笑笑」
救急救命講習会 2007年1月28日

札幌市かでの2.7

講師：札幌市中央消防署・日本赤十字札幌支社

北海道自然観察協議会のホームページ

ホームページ6月13日公開

<http://www.noc-hokkaido.org/>

観察会の広報

日本自然保護協会「自然」、北海道新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、赤旗、地元新聞、おしゃべりからず、ティガル、ウォッチングガイド、環境パレット、北海道環境生活部環境室環境政策課、札幌市環境局環境都市推進部推進課、札幌市環境局みどりの推進部みどりの推進課、北海道環境サポートセンター
小南印刷月刊誌 1月号「あ・そ・ぼ」会の紹介掲載

6. 指導員講習会について

2006年自然観察指導員講習会は、恵庭市青少年研修センターで10月27日(金)～10月29日(日)に実施され、入会者は27名。

7. 他機関との連帯、交流

講師派遣

札幌市厚別中央地区福祉協議会「森へ行こうよ」野幌森林公園 9月12日 5名

こども・コムステーション・土曜クラブ 7月8日 真駒内川、10月5日西岡公園 各4名

札幌市立幼稚園教育研究協議会レッツ充実生活部会 10月19日円山公園 2名

こども・コムステーション・いしかり

‘07年1月14日(日)滝野青少年山の家 4名

沼田町化石館学芸員(6年生35名、冬の野外体験学習)‘07年2月16日 2名

共催

「夏のカタクリの森」8/6 端野カタクリの森の会共催

「北帰行のヒシクイ観察とゴミ拾い」'07/3/25 千歳市環境課共催

2007年度自然観察会参加指導員アンケートのお願い

観 察 部

自然に親しみ、自然を知り、自然を守る。私たちの観察会の意義を再認識氏ながらの1年でもあったのではないのでしょうか。そんな2006年度の観察会スケジュールも皆様のご活躍とご協力で、無事終わることができそうです。ありがとうございました。

さて2007年度の観察会は、2月末集計の段階で50回に近い(滝野の集いを除く)数をを予定しています。観察会開催にあたっては、地域にとらわれず、多くの指導員の参加を募っています。

お手数ですが観察会への参加予定を、同封のアンケートはがきに記入のうえ、

3月31日までにご返送ください。

- ・アンケートはがきには研修会や救急講習会なども載せています。ご確認の上併せてご記入下さい。
- ・アンケートはあくまでも参加予定の確認ですので、当日の参加・不参加を拘束するものではありません。
- ・都合で参加できなくなった場合は、事前に必ず連絡先指導員に、ご一報ください。
- ・記入の際は、別紙「2007年度自然観察会の予定(指導員用)」を参照してください。
- ・アンケートの集計結果は、各観察会の連絡先指導員に直接お知らせします。また会報83号に同封します。

※なお観察会参加にあたっては、次の点に留意してください。

☆下見会は、観察会本番の準備というだけでなく、指導員同士の親睦を図り、また自己研鑽の場としての意味合いもあると思いますので、できるだけ参加されることをお勧めします。

☆観察会当日は不参加でも下見会に参加される方は、事前に連絡先指導員に連絡の上奮ってご参加ください。

◎あらたに2007年度中に観察会を開催予定の方は、観察部山形誠一までご連絡ください。

2006年度決算中間報告(2月18日現在)

収入の部

単位(円)

項	目	予 算 額	2月20日現在	増(+) 減(-)	摘 要
前	年 度 繰 越	1,396,922	1,396,922		
会	費	540,000	501,500		会員400名(新会員28名)
雑	収 入	0	45		利子
観	察 会 参 加 料	90,000	77,401		観察会保険料・資料代
合	計	2,026,922	1,975,868		

支出の部

単位(円)

項	目	予 算 額	2月18日現在	増(+) 減(-)	摘 要
事務費	通 信 費	60,000	59,680		切手代 はがき 郵送費
	消 耗 品 費	30,000	18,424		用紙 インクトナー 印刷代
	会 議 費	15,000	19,575		理事会 部会 会則検討委員会
	小 計	105,000	97,679		
会報費	会 報 郵 送 費	200,000	120,320		会報79・80・81号(クロネコメール便)
	印 刷 代	150,000	160,152		印刷会社へ支払い
	ラ ベ ル 代	4,000	3,675		
	封 筒 印 刷 代	36,000	34,965		封筒(角2・角3)
	原 稿 謝 礼 代	0	0		
	通 信 費	15,000	15,410		編集部関係の通信費
	消 耗 品 費	10,000	1,510		ゼロテープ プリンターインク 用紙
小 計	415,000	336,032			
活動費	観 察 会 費	90,000	47,165		参加者保険、配布資料、通信費
	総 会 開 催 費	16,000	24,800		会場使用料 講師謝礼
	30 周 年 積 立	200,000	200,000		
	全 道 研 修 費	50,000	35,643		機器使用料 プリンターインク 講師研修会費
	地 方 研 修 費	50,000	15,630		講師謝礼 会場使用料
	自 然 観 察 指 導 員 講 習 会	23,000	0		旅費補助から項目名変更
	救 命 救 急 講 習 会	8,000	14,200		
	用 具 費	30,000	0		講師派遣費 講師駐車代
	雑 費	10,000	5,480		森と自然をを守る会 盗掘防止ネットワーク
	小 計	477,000	342,918		
予 備 費	1,029,922	0			
総 計	2,026,922	776,629			

3月末日の決算額は総会と次号会報で報告します

2月18日現在収支残高

総収入 1,954,681円 - 総支出 431,714円 = 1,522,967円 (2月18日現在の残高)

30周年特別会計

2005年度繰越金	60,000円
2006年度積立金	200,000円
2007年度繰越金	260,000円

会計からのお願い

- ★アンケートの結果について
「郵便口座自動払込」についてのアンケートでは必要数の賛成が得られませんでした。
2007年度も従来通りの「振込用紙」による会費の納入となります。
アンケートのご協力ありがとうございました。
- ★会費の納入はお早めに
 - ・会費は、年度単位です。4月から新年度になります。振込用紙を同封します。
 - ・窓口通常払い込み料金は100円、ATMの利用手数料は60円です。
 - ・通信欄は住所変更等の近況報告にお使いください。
 - ・差し支えなければメールアドレスを記入願います。
- ★退会のお申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。
届けが出されるまで会費のお支払いをしていただきます。
- ★郵便口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔
会計 引地輝代子

2007年度事業計画(案)

1. 観察会の開催について

- 1) 今年度の観察会実施計画は別表「2007年度自然観察会予定表(指導員用)」の通りです。(観察会日程のほか下見会も掲載しました。) 今回掲載以外にも企画があれば観察部山形へご連絡下さい。できる限りバックアップしたいと思います。
各観察会連絡担当者の方は、観察会一般参加者名簿、指導員用名簿及び07年度観察会予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。
- 2) 観察会の報告書は観察部山形(札幌市中央区 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp)へ、保険料など現金は観察部会計引地へ送付ください。
振込を利用する方は、会計引地へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。
振り込みの場合は、振込用紙に記載されている内容を必ず記入して下さい。
口座番号:2770-9-34461 (通常払込加入者負担の用紙)
加入者名:北海道自然観察協議会観察保険料
- 3) 観察会の予定及び実施状況は、会報及び北海道自然観察協議会のHPでお知らせします。
<http://www.noc-hokkaido.org/>
- 4) 各観察会で作成・使用した資料を収集していません。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力下さい。
- 5) 観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。
- 6) 団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。
- 7) 「第18回 滝野の自然に親しむ集い」は、滝野実行委員会(委員長・事務局・編集部・観察部・研修部各1名選出)を組織して実施予定です。
- 8) 観察部では備品の充実をはかって行きたいと考えています。また現在保管している備品に関しても有効な利用法を検討して行きます。
- 9) 共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿とひとりあたり50円の保険料を協議会へ送って下さい。ただし、一泊二日以上は該当しません。

< 観察会事故緊急連絡 >

事務局へ連絡をお願いします。

Tel/Fax011-752-7217

日曜・祝祭日 (株)北海道保険---定休日

保険会社:北海道保険保証Tel 011-222-0877

死亡保険:500万円

入院保険金額:5,000円(180日以内)日額

通院保険金額:2,500円(90日以内)日額

2. 指導員研修について

< 全道研修会 >

サクラマスの自然遡上とサンルダムの影響

9月15日(土)~16日(日) 下川町サンル川

サクラマスの自然遡上・産卵を観察し計画されているサンルダムの影響を学び考える

< 地方研修会 >

(1)旭川・春光台公園の初夏に親しむ

6月24日(日)10時~14時30分 旭川市春光台公園

(2)札幌に生きる水生昆虫「西岡のトンボ」

8月25日(土)10時~15時 札幌市西岡公園

講師 日本トンボ学会・北海道トンボ研究会 横山透

3. 会報発行について

会報83号 6月15日、会報84号 9月1日、

会報85号 11月15日、会報86号 '08年3月15日

札幌以外の地域の部員が増えたので、連絡・分担をうまくやりたい。

事務局ほか各部などの最終締め切りは発行日の25日前とします。同封書類は事前打ち合わせ、発送作業の手伝いをお願いいたします。

4. その他

・各地域の実情を把握して、会員が活動しやすい体制を作りたい。

・'08年2月3日、責任ある観察指導員としての確かな判断と対応が取れるように救急救命講習会を実施します。

< 個人情報保護法について >

「北海道自然観察協議会」では個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法を尊重し、入手しました個人情報、観察会活動の目的以外には利用いたしません。また保有する個人データは適正に取り扱い、第三者には提供することはありません。

会員名簿は外部に流出しないようにして下さい。

< 観察会カードについて >

20周年記念事業の一つとして作成した「観察会カード」を配布中です。希望の方は事務局へ連絡をお願いします。

< 指導員講習会について >

2007年自然観察指導員講習会(日本自然保護協会・酪農学園大学共催)は、酪農学園大学(江別市文京台)にて'07年9月28日(金)~30日(日)に実施します。

連絡先・問合せ先:

日本自然保護協会 TEL 03-3553-4105

【備品・分野別ガイド】

観察会用物品

観察会に使用したい方は保管先へ申し込んでください。

- ・実体顕微鏡ニコンフーブルミニ 2台
- ・タモ網 25本
- 以上保管先 根岸 徹(厚別区) Tel 011-891-0556
- ・大型旗(120×180) 1枚 ・小型旗(35×43) 3枚
- ・ポール(折りたたみ式) 3本
- 以上保管先 須田 節(東区) Tel 011-752-7217



2007年度予算案 (暫定)

収入の部

単位(円)

項	目	2月20日現在	予算額	増(+)/減(-)	摘要
前年度繰越	費	1,396,922	1,199,239		2/18現在
雑収入	入	501,500	490,000		会員400名
観察会参加料	料	77,401	90,000	0	利子
合計	計	1,975,868	1,779,239		観察会保険料・資料代

支出の部

単位(円)

項	目	2月18日現在	予算額	増(+)/減(-)	摘要
事務費	通信費	59,680	80,000		切手代 はがき 郵送費
	消耗品費	18,424	30,000		用紙 インクトナー 印刷代
	会議費	19,575	50,000		理事会 部会 理事会参加交通費
	小計	97,679	160,000		
会報費	会報郵送費	120,320	180,000		会報4回発行(クロネコメール便)
	印刷代	160,152	200,000		印刷会社へ支払い
	ラベル代	3,675	4,000		
	封筒印刷代	34,965	35,000		
	原稿謝礼代	0	0		
	通信費	15,410	18,000		編集部関係の通信費
	消耗品費	1,510	5,000		セロテープ プリンターインク 用紙
	小計	336,032	442,000		
活動費	観察会費	47,165	90,000		参加者保険、配布資料、通信費
	総会開催費	24,800	25,000		会場使用料 講師謝礼
	30周年積立	200,000	30,000		
	全道研修費	35,643	50,000		講師謝礼 会場使用料 資料代
	地方研修費	15,630	50,000		講師謝礼 会場使用料 資料代
	自然観察指導員講習	0	10,000		
	救命救急講習会	14,200	18,000		講師派遣費 講師駐車代
	用具費	0	20,000		
	雑費	5,480	10,000		森と自然を守る会 盗掘防止ネットワーク
		小計	342,918	303,000	
予備費	費	0	874,239		
総計	計	776,629	1,779,239		

2007年度収支バランス

総収入 1,779,239円 - 総支出 1,779,239円 = 0円

30周年特別会計(2007年度)	2006年度繰越金	260,000円
	2007年度積立金	30,000円
	2008年度繰越金	290,000円

北海道自然観察協議会会則（改定案）

第1条 名称

この会は北海道自然観察協議会と称する。

第2条 目的

自然をとうとび、自然に学ぶ我々は、自然観察会活動をとおして多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら、自然と調和する方法を探求し、このかけがえのない自然をより良い姿で子孫に残そうとするものである。

第3条 事業

この会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 自然観察会等の育成指導
2. 会員の資質の向上を図るための研修会等の開催
3. 会員の親睦と団結を図り、地域の自然保護思想を啓発するための行事の開催
4. 会員相互の連絡と情報交換、研究資料等の発表のための会報の発行
5. その他、この会の目的達成のための事業並びに事業協力

第4条 会員

この会の会員は、（財）日本自然保護協会が認定した自然観察指導員をもって構成する。

第5条 組織

1. 会の運営のため、事務局をおき、総務、広報、会計をおく。
2. 会の事業遂行のため、観察部、研修部、編集部をおく。

第6条 役員

1. この会に次の役員をおく。
 - (1) 理事 30名以内 会の運営、事業の執行等について審議し、議決に基づき実行する。
 - (2) 監事 2名 会の運営及び会計を監査する。
2. 理事および監事は総会において選出する。
3. 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

第7条 役員職務

1. この会の役員職務は次の通りとする。
 - (1) 会長 1名 会を代表する。
 - (2) 副会長 若干名 会長を補佐し、会長に事故ある時は会長職務を代行する。
 - (3) 事務局長 1名 会の事務一般をまとめる。
 - (4) 部長 3名 各部に関する業務を行う。
 - (5) 総務 若干名 対外折衝等に関する業務を行う。
 - (6) 広報 若干名 事業に関する広報を行う。
 - (7) 会計 若干名 会計に関する業務を行う。
2. 上記の役員は理事の互選により選出する。
3. 上記職務の事務所はそれぞれの役員宅におく。

第8条 会議

この会の会議は、総会及び理事会とし、会長が招集する。会議の議長は出席者の中から選出する。

1. 総会 毎年1回開催し、会の運営及び事業の執行等全般について決定する。
2. 理事会 必要に応じて開催し、事業の執行等について審議する。

第9条 会計

1. この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入による。
2. この会の会費は、年額1,500円とする。ただし同一世帯に複数の会員がいるときは、2人目からは、年額1,000円とする。
3. 会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

付 則

この会の会則は、1984年（昭和59年）8月26日から施行する。
一部改正 1991年8月11日、1994年5月21日、2000年4月15日
2006年4月15日、2007年4月 日

2007年 総会・講演会・懇親会のお知らせ

総会は連絡協議会の運営方針などへのご意見やご要望を会員の皆さまから直接いただき、審議のうえお諮りする場です。会員の皆様におかれましてはご多忙の時節とは存じますが、是非ご出席下さいますようご案内申し上げます。

日 時： 2007年4月14日（土） 受付12時30分より

場 所： 札幌市エルプラザ2階 環境研修室 1・2号 TEL 011-728-1667
JR札幌駅北口12番出口から地下歩道で直結。

《 総 会 》 午後1時～午後2時20分

議事概要： 1) 2006年度事業報告 2) 2006年度決算報告・監査報告 3) 2007年度事業計画案
4) 2007年度予算案 5) 会則改定案 6) その他

《 講演会 》 午後2時30分～午後4時

演 題： 猛禽を守る！最前線レポート
- 猛禽類保護の保全医学的取り組み -

講 師： 獣医師 齊藤 慶輔氏 猛禽類医学研究所代表

講演概要：

北海道にはオオワシやオジロワシ、シマフクロウなどの絶滅の危機に瀕した大型猛禽類が生息しています。北海道の豊かな自然環境の象徴である彼らの生活が、近年人間活動との様々な軋轢により脅かされています。狩猟用の鉛弾を誤食して発症する鉛中毒は、100羽以上のワシを死に追いやりました。送電設備での感電事故や発電用風車への衝突事故はここ数年頻発しており、猛禽類にとって新たな脅威になりつつあります。生息域における道路の位置や路上に出現する餌が、交通事故の発生に深く関与することもわかってきました。知床に大量漂着した油まみれの海鳥をオオワシが食べ、中毒死した事例も、間接的とはいえ人間が関与しています。被害にあった動物を手がかりに、事故の原因や経緯を解明し、根拠に基づいた再発防止策を講じることが非常に重要です。この保全医学という分野は、専門的な知識や技術を用いて様々な環境問題に挑む、獣医学の新しい領域なのです。

講師プロフィール：

猛禽類医学研究所代表。日本獣医畜産大学 野生動物学平成6年より環境省釧路湿原野生生物保護センターを拠点に絶滅の危機に瀕した希少猛禽類の保全医学的活動を行う。

近年最も力を注いでいる研究テーマは、猛禽類の鉛中毒根絶と環オホーツク圏におけるオオワシの保護。

環境省希少野生動植物種保存推進員、北海道地方環境事務所調査研究員、オオワシ・オジロワシおよびシマフクロウ保護増殖分科会検討委員。

WAWV（世界野生動物獣医師協会）理事、日本野生動物医学会 幹事、ワシ類鉛中毒ネットワーク副代表。

主な著書：生態学からみた野生生物の保護と法律（共著）

（財）日本自然保護協会編 講談社 2003、

野生動物救護ハンドブック（共著）文永堂出版 1996 などがある。

《 懇親会 》 午後5時～午後7時

場 所： 高田屋 TEL011-757-5201

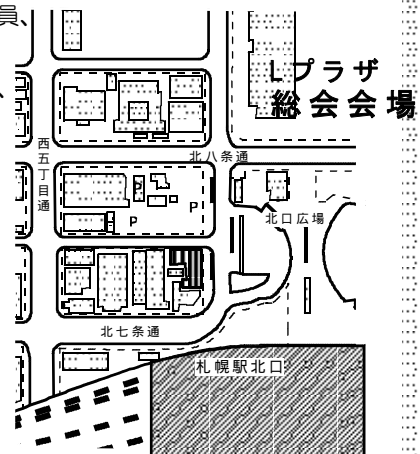
札幌市北区北8条西3-28札幌エルプラザB1

会 費： 3,500円（飲み放題）
会費当日受けます。

講演会講師の齋藤先生がご出席の予定です。

▽ 総会当日に2007年度観察会予定表をお渡します。各地域で使用する枚数を観察部 山形 誠一 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jpへご連絡下さい。

▽ 総会・講演会・懇親会出席の有無を 事務局 須田節 へ4月10日までにお知らせ下さい。
〒007-084 札幌市東区北40東9-1-13
TEL・FAX 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com



第3回 落ち葉はごみか？

NPO 法人 北のごみ総合研究所
代表理事 神山 桂一

2006年の秋は紅葉するのが例年より遅かったように思われる。地球温暖化の影響との説もあるが気候変動のばらつきの範囲内であろう。私の近所ではモミジ類が鮮やかな紅色にならずに汚い色のままで落葉した。そうしたことに気がつくのは我が家の前の公園にある樹木（モミジ類やナナカマド等）の枯葉を毎年のように大きなごみ袋に3杯ほど頂戴してきて、我が家の庭で堆肥作りに利用しているからである。落葉の中には他にカラマツの葉もあるが、これは熊手で掻き集める時に残るので、ラクヨウ（ハナイグチ）の菌床が育つようにとそのままにしておく。

私の住む北広島市の西の里団地は造成されてから既に35年経過した。造成直後に移り住んだ方がたの家々には庭木が植えられて大きく育っている。我が家の庭木も例外ではなく、大きくなり過ぎて既に切り倒したものも数本ある。広くもない庭にこれでは植え過ぎだと庭師に言われそうだが、引っ越してきた当時に頂いたり園芸市で見つけて若木を次々に植えてきた結果である。そのために秋になると落ち葉が我が家の敷地内だけではなく周りの家の庭や道路に飛び散ることになり迷惑をかけるようになった。家人はそれを気にして何本かを切り倒すことになったのである。

いま一つの理由は枝葉が茂りすぎて庭の日当たりが悪くなったためでもある。どちらの理由にしても幹の太さが20センチメートルを超えるまでに育った木を切るのには随分と胸が痛んだ。植物とはいえ生きているものの命をそこで切断してしまうことに罪悪感を強く感じたからで、狩猟家や林業家とは異なる人間であることを痛感した。

それはさておき、表題と同じようなテーマで4～5年前に「北ごみ通信」に一文を載せたことがあった。その時は落ち葉を燃やすことにより発生するダイオキシンを避けるために、落ち葉焚きが他の廃棄物の野焼きと同様に禁止されたことを取り上げた。

この規制は現在では幾分緩和されたが、落ち葉がもたらす思いがけない問題は他にもいろいろある。昨年の秋にも道南の鉄道線路の上に散り積もった落ち葉が列車の車輪をスリップさせて動けなくなった事件があった。また雨に流された落ち葉が雨水排水孔の格子に張り付き（特にイチヨウの

葉は始末に悪い）道路をプールのような状態にすることはしばしば見られる。ビルの屋上に舞い上がった落ち葉はルーフトレインのところに流れ着いて、屋上に深さ数10センチメートルの池を作ってしまう、それが原因でビルの室内に雨漏りを生じさせる。こうした事件を防ぐには落ち葉をなるべく小まめに取り除くことである。そんなことは面倒くさいと言っていると後でとんでもないことが起きてしまう。

表題の疑問はこうした問題から生じた。世の中には随分きれい好きな方がたくさんいらっしゃる。散らかった落ち葉をせせと掃除して下さる。隣家の庭木の落ち葉が舞い込んで来ても、普通の人には別にそれで腹を立てることはない（筈である）。しかし住宅が建て込んでくると、これが近隣トラブルの原因の一つになる。掃除の手間が増えるからであろう。そんな方の一人がある時、新聞の投書欄で「街路樹は落ち葉を撒き散らすから植えないほうがよい。今ある街路樹はもっと少なくすべきだ」との主張を展開された。この説にはさすがに賛同する人が少なく、街路樹は切り倒されることもなく、どこの街でも成長を続けている。おかげで秋になれば町の中では落ち葉の掃除は避けられない。そしてそれは季節的に発生するごみとして扱われている。

こんなことを今改めて取り上げたのは最近各地で進められているごみ収集の有料化のためである。自分の家の庭木から発生した落ち葉は自らが発生させたごみである。有料化の趣旨にしたがって料金を払うべきであろう。それを利用しないのであれば不要物になるからである。しかし自宅の前の道路を掃除して集めた落ち葉はどうするのだろうか。また隣家から飛び込んできた落ち葉はどうするのだろうか。善意のボランティアとして道路で発生したごみを入れた袋にまで料金を払うのはおかしいのではないかという声が出るのは当然である。しからば隣の落ち葉のような場合はどうなるのだろうか。自宅の庭木の落ち葉と隣家の庭木の落ち葉を区別して袋に入れることができたとしても、それをお宅のごみですと届けるのだろうか。そんなことをやればこれこそ近隣のトラブルの原因になってしまい、わざわざ住み難い町を造ることになってしまうだろう。

私の考えを取って述べると言われるならば、私はこうした落ち葉はごみではないとしてはどうだろうか。すなわちこうした物は無料で集めるのである。なぜならば落ち葉は何処かで立派に腐葉土に変身することができる。林の中ならば土壌を有機質豊かな、植物や土壌微生物が棲みやすい環境

に変えてくれる。自治体にはそうした能力があるかどうかは別として、せっかく樹木が生産してくれた有機資源をむざむざと捨ててしまうのはもったいない。個人でも集団でも行政自体でもかまわないから集めた落ち葉は生かして使おうではないか。



参加者の声

札幌市東区 モエレ沼公園 (06/10/29)

北区 前多 輝明

10月27日に指導員の道場さんから29日にモエレ沼で野鳥観察会があるので、行かないかと誘われました。前から名前は知らないけれど野鳥を見ることは好きだったので、ぜひということでお供させていただきました。

双眼鏡で見る水鳥のいきいきとした様子、望遠鏡から見た間近のカモの美しさは感動的でした。今まではカモがいるなという程度でしたが、いろいろな種類がいて、それぞれ特徴をもっていることは驚きでした。

2時間くらいの観察会でしたが、時間の経つのも忘れていました。参加された皆様からはいろいろと親切に教えていただきました。有り難うございました。多分、これからも参加すると思いますので、よろしくをお願いします。



小樽市 長橋なえぼ公園 (06/11/3)

小樽市 高橋 直己

オオツリバナの冬芽を観てスタート。シラカンバの枝の落ちた跡がヒゲ状なのに気付き、ダケカンバは細い枝の時から幹と同様白く、葉の柄の部分がハート形になっているなど、二者の違いを知り大いに納得させられる。

紅葉、褐葉、黄葉の違いや落葉のしくみなどをかなり専門的に学習していると、落葉の中にツチハンミョウを発見する。一同見事なルリ色に感動しつつ、触れるとかぶれることを知る。オスとメスの見分け方を知り、大の虫嫌いも心が動く。さらに巧妙な生殖のしくみに驚嘆。

少し道を登った林の中、フユシャクが飛んでいた。大きな木に止まった彼を皆で凝視する。恥ずかしさにたまりかねたオスが飛びたち残ったメスを観察できた。とても稀なこと。

ヤチダモについたトドノネオオワタムシを見てユキムシの不思議な生活を知り、最後にケヤキヒトスジワタムシを顕微鏡で観察して終了。

会員の個展のお知らせ

杉浦功悦 竹工芸展
“竹芸の美”

日時： 2007年5月29日(火)～6月3日(日)
AM10:00～PM7:00
場所： ギャラリー大通美術館 Tel 011-231-1071
札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル

※ 杉浦光悦さんは、当会の会員で、大分県別府に在住しています。この度札幌で個展を開かれるとのことでした。



ウォッチングレポート

苦小牧市 盛夏の錦大沼 06年 8月 6日

参加者11名 指導員 4名 晴 道新、朝日、読売、民報、NHK

<新緑の中の森林浴>

晴天、今日の主題である樹下、林内での気温を体感するには最適の日となった。参加者からは、このようなことを考えながら林内で過ごしたことがないので、今日は良い体験をしたとの感想をいただいた。

広葉樹の林から、芝の広場に出て直射日光を浴び、樹林の効果を実感したことを指している。ただ単に樹木の種類、その特徴などを観察するのではなく、視点を変えることによって、また違った観察会とすることが出来た。

参加者がやや少ない傾向にあり、その分析と対応策を考える必要がある。

(佐々木 昌治 記)

江別市 野幌森林公園 06年 9月 16日

参加者 6名 指導員 6名 曇

<森に秋を探しに行こう>

少し肌寒い曇りの天気。雨がなくてもよしとする。一般参加者は大人5人子ども1人で親子参加はひと組。その親子は滝野の集いの参加者でもありました。指導員は6名も参加していただき、感謝あるのみです。グループ分けせずに一団となって観察をしていきました。

コースは大沢口からエゾユズリハコースに入り大沢コースを経て大沢口に戻るもの。例年より気温の低下や日較差が小さいためか、秋の訪れが遅いようで、紅葉も少なく、それも赤より黄色の方が多いようでしたが、カツラの黄色い落ち葉からの甘い香りは森の中にゆっくりと漂っていました。

エゾユズリハコースの中間に立ち枯れした木の幹にクマゲラかアカゲラの食痕と思われる数個の穴が見られるものがあり、以前クマゲラの食痕のあったエゾマツが18号台風で倒れ見られなくなったのでその代替えとして今後も観察のポイントとしていきたい。

また、今回は、2002年の18号台風でできたギャップの自然回復の様子も観察。広い倒木地では既に倒木は片付けられ森林再生のためにと植樹されたところが多く見られました。植樹の手法や樹種は取り組んだ団体？により異なるようで、今後の経過を見るのも観察の観点の一つに入れてもおもしろいのではないかと思います。

親子の参加者が少なかったため、来年は啓宣方法を工夫していきたいと思います。

(横山 武彦 記)

岩見沢市 利根別自然休養林 06年10月1日

参加者 2名 指導員 3名 快晴

<秋の野鳥と植物観察>

天候は最高。参加人数は少ない分お互いの意思疎通が良かったと思います。

オオマルバノホロシヤツルリンドウ、マムシグサ、ホオノキなどの実が赤くなっていました。また、ホソバノツルリンドウ、エゾトリカブト、サラシナショウマの花がまだ咲いていました。

鳥があまり出てくれなくて、私の活躍できるシーンは余りありませんでしたが、スコープで木の実などを見てもらいました。スコープの使い方も、工夫すれば色々あると思います。

次回からは、報道関係への案内を積極的にして、参加人数をもう少し増やそうと考えています。

(佐藤 幸典 記)

札幌市東区 毛エリ沼公園 06年10月29日

参加者18名 指導員 7名 曇

<渡り前集結の鳥たち>

午前中は天候が少々心配でしたが、観察会が始まる頃には雨雲が少なくなり青空が出てきました。鳥のほうは、カモ類の大きな群れが移動してしまい、数が昨年よりも少ないのは残念でした。それでもオオバンやヨシガモなどを観察でき、カワアイサのメスとオスの地味なエクリプスの状態の羽の違いや、ウミウの嘴を望遠鏡でよく見ることができてカワウとの違いをはっきり確認できました。

反省点としては、集合場所からカモ類を観察しやすい地点まで少し距離があるので、なるべく早く観察地点へ移動したほうが、この観察会の本来の目的が達成できると思います。少し集合時間を早めたほうがゆっくりと観察会が出来そうです。

(北山 政人 記)

苦小牧市 晩秋のウトナイ湖 06年10月29日

参加者14名 指導員 3名 曇 道新、朝日、苦民報、市広報

<ハクチョウ(渡り鳥)の観察と森のお散歩>

明け方寒冷前線が通過し、曇りの状態から始まり、終わる頃には晴れになっていた。

14名の参加者なので、2班に分かれ、湖岸の給餌場のオオハクチョウ、オナガガモや湖の中ほどにいるヒシクイやマガンの観察からはじめた。

小学低学年の子供達もいたが、ガンの確認も出来た。岸边や林には、ツルウメモドキ、マユミ、チョウセンゴミシの実や、ヤマモミジやコナラなどの紅葉も残っており、フユシャクも飛んでいた。

特に問題点もなく、まずまずの観察会だった。

(谷口 勇五郎 記)

小樽市 長橋なえぼ公園 06年11月3日

参加者16名 指導員 8名 曇/晴

<生き物たちの冬じたく>

下見は10月30日に実施し、5名が参加した。

当日は、計24名が、今にも雨の降りそうな冬枯れの公園の中を、資料を参考にしながら歩いた。

植物では黄葉・褐葉・紅葉の出来かたのメカニズムの違いを学んだり、芽鱗や托葉をまったり、裸のまま冬を越そうとしている冬芽たちや、人気のツルリンドウの実やザゼンソウの芽を観察した。

動物では、ツチハンミョウの の違いや、見つけることが珍しいフユシャクの などが見られた。ユキムシでは、トドノネオオワタムシの第4世代とケヤキヒトスジワタムシの第4・第5世代と越冬卵の不思議さに感嘆の声が上がっていた。

今回の特徴は、先月誕生した高橋直己指導員が参加し、子供の指導を引き受けて下さったことである。

(後藤 言行 記)

北区 北大構内 07年1月6日

参加者33名 指導員 2名 曇

<雪氷観察会 親子・子供特集>

降り積もった雪の表面に昨日降った雪あられが見られ、また、5年間の観察会では最少の積雪量でした。

10cm~20cmの高さの積雪断面に、縦状・横状・粒状の層を一緒に見たのは初めてでした。

各層から、重さ・雪の性質・温度・酸性度を調べました。一番雪が積もっている場所探しでは、雪の深さを測る度に子どもたちが真剣な表情をしていました。

冬休みの自由研究のために参加した子もいました。樹状結晶や、1万年前位の南極の氷に触れたり、水に入れて氷と空気が溶け出す音を聞きました。一瞬にして氷を作る実験では手品を見ているような期待と不思議さを楽しみました。

(須田 節 記)

苫小牧市 北大研究林 07年1月21日

参加者20名 指導員 2名 晴 道新、朝日、読売、他2

<冬芽と動物の足あと探し>

当日の最低気温は - 10 でしたが、晴れて気温が上がり、風もなくなるといへんよい観察会の天気でした。札幌など他市町からの参加者もあり20名でした。

真冬なので何箇所か餌台が設置されており、留鳥(カラ類)を近くで見ることができたり、川幅の広まったところにマガモを見ました。樹形や冬

芽の観察、本州や外国からの針葉樹も見ました。例年に比べ積雪は少ないものの、幾らかの雪があり、動物の足跡(シカ・キツネ・ウサギ・リス)も確認できました。2班に分けなかったので、人数が多く、遠くにいる人まで声が届かなかったり、手元の様子が見れなかった様に思います。しかし、特に事故もなくある程度満足して帰った様に思います。

(谷口 勇五郎 記)

豊平区 西岡公園 07年2月11日

参加者 5名 指導員 4名 雪/晴 朝日、読売

<冬の水源地トレッキング>

朝から雪です。(スノーシュー予約の2名から不参加の電話有)

集合時間には、晴れ上がり動物の足跡は期待できないが、絶好のスノーシュー日和。林に入ると梢に積もった雪が日光を浴び綺麗ですし、樹種によって違って面白いです。動物の食痕観察、樹木の凍裂や冬芽観察、野鳥観察をしながら湿原を横断しました。今日のごほうびはクマガラが立ち枯れたトドマツ(胸高直径60cm位)の樹皮を剥がしている様子を皆さんで観察でき大喜びでした。

参加人数が手ごろなことも幸いしたようです。

観られた順にハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、エナガ、コゲラ、アカゲラ、クマガラ、カケス、ヒヨドリ、ヤマガラ、ウソ(?), マガモなど。

(佐藤 佑一 記)

中央区 円山公園 07年2月18日

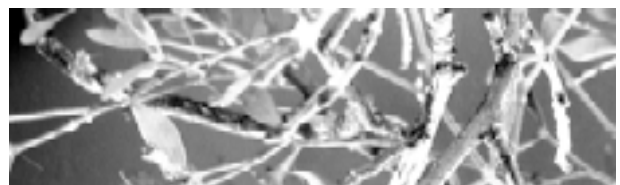
参加者 8名 指導員 4名 曇/雪

<冬に耐える植物>

14日の強風のおかげで、折れた枝や実など、雪の上にいるいろいろな物が落ちていて観察材料が豊富な上に、参加してくれた指導員が、それぞれの見地から色々と解説をしてくれ、話の弾んだ観察会でした。

なかでも折れたハルニレの枝についたヤドリギは、普段は木の高い所にあるためなかなか見ることの出来ない全体像を、手にとって観察することが出来た上に、鳥の糞に混じった種までついていて、葉の形、根の張り方、種の散布から進化の話まで、ひとしきり盛り上がりました。

(山形 誠一 記)



自然を満喫！「錦大沼公園」

苫小牧市 富永まゆみ

私は錦大沼公園によく行きます。錦大沼公園は苫小牧西部の樽前山麓に位置する広大な面積236haを持つ公園です。錦大沼（周囲約3.5km）と錦小沼（周囲約1.6km）を巡る散策道は、木道も整備され、気軽に自然観察を楽しむことができます。

駐車場から覚生（オボップ）川が流れる清涼橋を渡り、芝生広場からの樽前山の眺めは雄大で最高です。（写真）ここからの眺めは私のお気に入りのひとつです。



四季を通して市民の憩いの場として親しまれ、冬季は沼が氷結するのでワカサギ釣りも楽しめます。私もそのひとりですが、釣り穴に誤って片足が落ちてしまい早々と引き上げてきた事がありました。ちなみにその時の釣果は3匹でした。（苦笑、今年は例年とちがひまだ凍結していません）

錦大沼は水鳥は少な目の様ですが、色々な鳥を見ることができます。アカゲラやヒヨドリ、お馴染みのゴジュウカラ、シジュウカラなどに会うことができます。運がよければ、その美しい外見から「飛ぶ宝石」などと呼ばれるカワセミを見ることができるでしょう。特に両翼の間から見える背中の水色は鮮やかで、光の当たり方によっては緑色にも見える美しい鳥です。

夏には苫小牧でも珍しくなったミツガシワが花盛りです。湿地や浅い水中に生える多年草で、白い花を咲かせるミツガシワの花、深く五裂した花冠の内側に縮れた毛が生えていて、その可憐さを引き立てています。本当に可愛らしい花です。

錦大沼公園は四季折々に楽しめるところです。皆さんも観察会、散策の後は公園内の温浴施設「ゆのみの湯」で汗を流して心も体もゆったりとしてお帰りになるというのはいかがでしょうか。

利根別自然休養林の魅力

岩見沢市 佐藤 幸典

利根別自然休養林（次からは利根別）は岩見沢にある野幌原始林の縮小版と言った所でしょうか。

春夏秋冬どの季節も楽しいところです。春は雪がまだ残っているうちから、フクジュソウやナニワズの花を探るところから始まり、あっという間に全山お花畑になります。毎日、新しい発見があるのがうれしいです。

オシドリやカイツブリに会えたらラッキーです。ヒナを連れていたら余計にラッキーですね。

初夏はキビタキやオオルリ、クロツグミに会いたい方は是非いらしてください。利根別はキビタキの森と言われています。幸運だとクマゲラの子育てや、フクロウのヒナにも会えます。春に咲いていた花はどこへと思うくらい、花の種類が変わって行きます。

秋は紅葉が楽しみです。ただ期間が短いのが玉にキズですが……。色々な植物の実の色が、どんどん変化していくところが見られるのは楽しいものです。

冬は私の一番好きな季節です。つぼ足で歩ける時はつぼ足で、歩けなくなったら、スノーシューを履いて、夏には歩けなかったところへどんどん行くことができます。

以上簡単に、利根別を案内させていただきました。

自然観察指導員になったわけ

厚別区 山口 豊

自宅近くに野幌森林公園があります。5月頃公園内の小川に網とバケツを持ち、長靴を履いて小魚を捕りにいきます。バケツに入れて観察します。図鑑がないので、フナ、スナヤツメ、カワエビ、ウグイくらいしか名前はわかりませんが、その他にまだ数種類がいます。子供に返り時間のたつのがとても速く1日が過ぎてしまいます。

これからはもっと身近な自然観察をし、自分のフィールドをもちたいと思います。自然を破壊して道路を造ったり、コンピューター会社関連の団地を造り、森や田んぼがなくなっています。

自分が指導員になるうとしたのは札幌市中央区の東側で生まれ育ち、近くには田んぼや畑がありよく遊びに行きました。また、すぐ近くには豊平川があり、草河原にはヘビやカナヘビなどがいましたし、川にはフナ、ウグイなどの川魚も今よりいたと思います。

子どもの頃の思いが自然観察に興味を持ち続け、指導員講習会を受けることに繋がりました。

自然観察指導員の講習会に参加して

函館市 野口 良一

10月の3日間恵庭での自然観察指導員の講習会に参加し考えさせられることがたくさんありました。その中でも人間と自然の関わりがいかに大切なことなのかを十分に理解し、これからの活動をしてゆきたいと思っております。今のところこれといった活動をおこなっておりませんが、9月にあった出来事をお知らせします。

私の所属している山岳クラブで函館近郊の「えぞ松山」へ登った時のことでした。私がリーダーで12名のメンバーが登山途中、後からバイクがきました。我々は道の横によけバイクはそのまま上へ登ってゆきました。

登っていった後の登山道はタイヤで溝が出来ていました。深くえぐられている所もあるので時々通っていると思えました。彼らに上の林道で休んでいるところで逢いましたが、若者かと思っておりましたがヘルメットをぬいでいる姿を見ると40～50歳代の中年の人達でした。その時に私は彼らに自然破壊になるのでやめたらという一言が言えずそのまま見過ごしてしまいました。10月の講習会を受けた後であれば注意できたのにと残念に思っております。

12月2日に画家で絵本作家の田島征三さんの講習会があり聞きに行きに行ってきました。タイトルは「自然とともに生きるこどもをどう育てるか」で自分のこども時代の生活を話してくれました。年代が同じくらいなので私のこども時代の生活とほとんど一緒でしたが、そのころもやはりいじめがあり兄弟でよくいじめられたそうです。でもその頃は逃げ場があったということです。自然の山、川等々いじめられた後で遊んで帰るとそのことをすっかり忘れてから家に帰ることができ、後に引きずることはなかったと話しておりました。

現代のこども達もゲーム等室内で遊んでばかりではなく、自然とともに生きていけば自殺等に追い込まれないで済むのではないかと話しておりました。私も同感です。こども達を出来るだけ自然で生活するスタイルになるよう私達大人が努力すべきと思いました。まず初めに私の孫達をテレビゲームから開放しようと思っております。

海岸植物群落調査

当別町 大口 弘美

NACS-Jの海岸植物群落調査を石狩地区指導員の方々と平成18年の7月から8月にかけて石狩川河口から北上し浜益の千代志別川河口まで凡そ58kmの調査に加わりました。距離の長さに気おくれしましたが石狩地区の皆さまは石狩浜の自然保全、調査等ですでに活動しておりその実績に心強く思い
自然観察 82号 (14)

ました。連絡係の方は皆さんの都合を調整し、綿密なる打ち合わせと計画を立て2班に別れて行動しました。

この12箇所の海岸は砂浜や礫浜に限られ断崖が切り立っています。千代志別河口では頭上の崖に咲く花の識別に口惜しく思ったり、又ゴミ等の漂着物の目立つ床丹の礫浜の石の間から根づくハマベンケイソウの青い花に感激しました。石狩浜では余り見ないオカヒジキやオニハマダイコンを望来あたりでは良く見られ、海水浴場や漁港、道路脇等の環境にも内陸植物に混じって良く伸びたコウボウムギを観察しました。

盛夏のさなか脱水症に気がつかったの活動、望来の浜で皆さんと昼食を取りながら調査シートを一つひとつ確認作業をしました。石狩の皆さんの自然への探究心に感銘を受け、気負いのない観察の至誠心に学ぶこと多くこの調査を終えました。

東京都心の身近な自然

東京都にて 鹿島 邦裕

東京に単身赴任し、自宅のある石狩郡当別町と東京都目黒区を往復する生活も早いもので1年10ヶ月が過ぎようとしています。今年度実施された石狩市及び石狩北部地区主催の自然観察会への参加もままならず、若輩ながらお手伝いも出来なかったことを反省すると共に、メンバーの皆様にはたいへん申し訳なく思っております。

このところの東京都心の最低気温は4 前後、日中は10 前後と真冬としては暖かく、梅の花が咲き始めたと風のたよりにて聞かれる今日この頃です。

そのような気候の中、早朝、通勤通学の駅に向かう途中、こじんまりとした庭に植えられた庭木の枝先を、枝から枝へ、木から木へと「パイチ、パイチ、グジュ、グジュ」と鳴きながら忙しく餌を求めて飛び回るシジュウカラの小集団。住宅密集地の僅かな空間での光景ですが、ビルに囲まれた都会の雑踏の中に於いて、ホッとするほんの一瞬です。

澄んだ空気、広大な林の自然を謳歌し、ほんわかとゆとりを感じさせる自宅近郊のシジュウカラを思い出しながら、都会のシジュウカラは、ブランドのネクタイをキリりと締め、シャキッとした態度で我々には顔を向けず、そそくさとその場を飛び去る体制を常に整えているようで、なんとなく気持ちにゆとりのない生活を送っている都心のサラリーマンとあい通じるものがあり、可笑しさを誘う光景でもあります。そう感じるのは気のせいでしょうか？

そんな彼らも目黒区の鳥にも認定されており、鼻高々、いや声高々に、余計に自信を持ってシャ

キっとしているかも知れませんね。

東京においても、近郊の里山自然保護へのフィールド活動は、最近特に盛んになっているように感じます。里山のみならず、都会の身近なほんの僅かな自然環境にも気配りをしていきたいものですね。

自然観察指導員講習会～

パークボランティア・フットパス

稚内市 八木 正和

私は、5月～10月は稚内・11月～4月は旭川市に住んでいます。観光記念写真で生計を立てています。また、仕事にはなりません、利尻・礼文・サロベツ国立公園の風景が好きでパノラマ撮影しています。

3年ほど前より礼文地区で自然ガイドが増え、それに触発され、花に興味をもつようになり、また、ガイドにも興味をもつようになりました。2年前、国立公園稚内地区のパークボランティアに入会し、先輩の難しい講義に歩いて教わっている最中です。

去年、ある方が緊急入院して、宗谷丘陵のフットパスガイドの手伝いを頼まれました。環境省の方の助言をいただき、何とかシーズンが終わりました。

自然観察指導員講習会を恵庭で受講したのが昔のように、年末の仕事の忙しさから今、正月を迎

え、思い出しています。ここで得たものは、私にとってカルチャーショックでした。時間を忘れる位の熱血教師と超ハードなスケジュール、殆んど悩むひまもない日々でした。しかし、受講したことで、いろんな場所で自然に関わっている人達と親睦を深められ、感じたことは、「宇宙船地球号 日本 北海道 道北 利尻・礼文・サロベツ国立公園」今あるゼイタクな自然に身も心も委ねながらも、過去のミクロから将来のマクロ迄、複合的に強く意識すること！

追 伸

今年、観光シーズンに向けて、観光バスガイド・観光案内業・自然ガイドの方などにより、私を含めてNPO法人を設立しようという計画があり、期待と不安でいっぱいです。昨年、北海道遺産の宗谷丘陵のフットパスツアー（15名前後限定）を試験的に行ったところ、旅行会社より年末に約10倍の予約が入り、これでは個人では無理で、将来はもっと増える可能性が必死であります。

まだ私は自然観察指導員の気持ちはありますが、声に出ません。伝えられるまで行きません。稚内・サロベツ地区限定で行動しようと思っています。北海道自然保護協会・北海道自然観察協議会、その他、自分は道北に生かされているという気持ちで頑張る所存です。何かアイディアのある方、よろしく願います。また、興味ある方、勉強させてください。



会報に同封の2007年度観察会予定をご覧ください。

観察部からのお願い

昨年度、観察部備品として購入いたしましたルーペについて、貸し出しを受け現在利用中の会員の皆様へお願いいたします。備品管理の都合上、ナンバリングを行いたいと考えております。つきましては一度、観察部まで返却いただきますようお願いいたします。返却方法については、観察部山形までお知らせください。よろしく願います。

【事務局だより】



※ 2007年総会：4月14日（土）午後1時～午後2時30分
 講演会：午後2時30分～午後4時 演題：猛禽を守る 講師：齊藤慶輔氏
 懇親会：午後5時～午後7時 詳細はp.8の案内をご覧ください。

※ 観察会の保険適用範囲のお知らせ

- 1) 観察会場所へ一般参加者との自動車相乗り同行は、原則的に認めておりませんので、ご注意ください。
- 2) 集合して講義後、自家用車で観察会場所へ移動の場合は、観察会行程の一環として保険会社が認めた場合に保険が適用されます。
- 3) 通常は観察会集合場所から観察会解散場所までの最長24時間です。

※ 救急救命講習会：かでのる2・7で1月28日に12名が参加して開催。（札幌市中央消防署・日本赤十字北海道支部 救急救命講習会会計内訳 会場費10,300円・消防車駐車料金900円、日本赤十字社講師派遣料3,000円 計14,200円 各地域で救急救命講習会を開催する予定の場合は事務局へ連絡をお願いします。

【理事会だより】 〈理事会議事録から抜粋〉

第4回理事会 '07/1/27

- ・各部2006年度事業報告
 11月19日「フォローアップ研修会」参加者少数により中止。
 年会費の郵便局自動振込みは希望者が少ないために、実施できない。
- ・3月24日～25日 全道指導員研修会がウトナイ湖ネイチャーセンターで開催される。定員18名。
- ・会則に基づいて副会長を理事の互選により、竹林正昭さん（北見市）を選出。
- ・広報担当者は、苫小牧市の岡田理江子さん。
- ・11月25日作成の会則改定原案を理事会で検討、承認。総会において会員の皆様に諮ります。
- ・2006年の理事選考委員会の提案と現行の申し合わせ事項から次のように確認をしました。
 ①会長及び副会長の任期は原則として2期（4年）までとする。②副会長から会長を選出するのが望ましい。③任期（2年）満了を監事・理事に通知する。
- ・理事会出席理事旅費の補助をする。
- ・北海道開拓記念館など道立博物館施設への指定管理者制度導入に関する要望書を道に提出。

第5回理事会 '07/2/27 （詳細は本号に掲載）

- ・2006年度事業報告および会計中間報告の確認。
- ・2007年度事業案及び予算案の検討。

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は	----->	郵便振替口座	02710-1-8768	北海道自然観察協議会
	----->	会 計	畑中 嘉輔	〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13
				/Fax 011-581-5439
観察会保険料は	----->	郵便振替口座	2770-9-34461	北海道自然観察協議会観察保険料
	----->	観察会担当会計	引地 輝代子	〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25
				/Fax 011-773-2170
観察会報告書・資料は	----->	観 察 部	山形 誠一	〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
研修会関係は	----->	研 修 部	大表 章二	〒048-1301 磯谷郡蘭越町蘭越町852-23 0136-57-5610
退会、住所変更の連絡他は	----->	事 務 局	須田 節	〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13
事故発生等緊急時は				/Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com
				北海道保険保証 011-222-0877（日・祝祭日は休み）
投稿や原稿は	----->	編 集 部	竹林 正昭	〒099-2103 北見市端野町3区378-3
				/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察：2007年 3月 15日 / 第82号 年4回発行
 （会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています）
 発 行 北海道自然観察協議会
 編 集 北海道自然観察協議会編集部